

# 「現場から学んで、現場に戻す」

## 3 大学連携プロジェクトとは何か

地域拠点型農学エクステンションセンター長  
酪農学園大学酪農学部酪農学科 教授

干 場 信 司

酪農学園大学、北海道大学、帯広畜産大学の道内3大学はこのほど、文部科学省の戦略的大学間連携支援事業に採択された「食の安全・安心の基盤としての地域拠点型教育研究システムのネットワーク形成」に連携して取り組むことになり、2008年10月からプロジェクトを開始している。本稿では、同プロジェクトの概要について説明する。

### 1 何をするのか？

このプロジェクトの内容を一言でいうと「食の安全・安心の問題について、3大学が連携して『教育』と『地域に対する社会貢献』という2本柱を主眼に、『現場から学んで、現場に戻す』という姿勢で取り組む」ものである。そのための組織として、図に示した「地域拠点型農学エクステンションセンター」（通称：3大学連携センター）を設置している。

北海道の農業とかかわりの深い3大学が、初めて本格的に連携して取り組むプロジェクトであるとともに、道内の8カ所の地域（サテライトと呼ぶ）と強く連携しながら「食の安全・安心」の問題に取り組むことが大きな特徴である。

### 2 「食の安全・安心基盤学」の教育

プロジェクトの内容を具体的に述べると、一つ目の柱である『教育』については、講義科目として「食の安全・安心基盤学」を3大学が協力して新たに作り上げる。対象は、大学生（大学院生と学部生）と社会人に分けて考えている。

大学生には、3大学の教員が協力して講義を行うとともに、サテライトに学生を連れて行き、現場を見たり、現地の人たちから話を聞きながら食の安

全・安心を学び、一定の単位を修得したなら「ディプロマ」と呼ぶ修了証書を授与する。大学教員はもちろん、寄付講座などで外部（企業など）から大学に出張講義に来られている講師にも先生に加わっていただき、幅広い視野で講義を展開していく。

社会人としては、8カ所のサテライトの農家および市町村・農協の職員などが対象で、一定の単位を修得した場合には「（食の安全・安心）マイスター」と呼ぶ証書を授与する。社会人は大学に来て受講することは困難なので、大学で行う「食の安全・安心基盤学」の講義を収録し、インターネット回線を利用して、現場にいながら見たいときに見ることのできる遠隔授業のシステムを取り入れる。

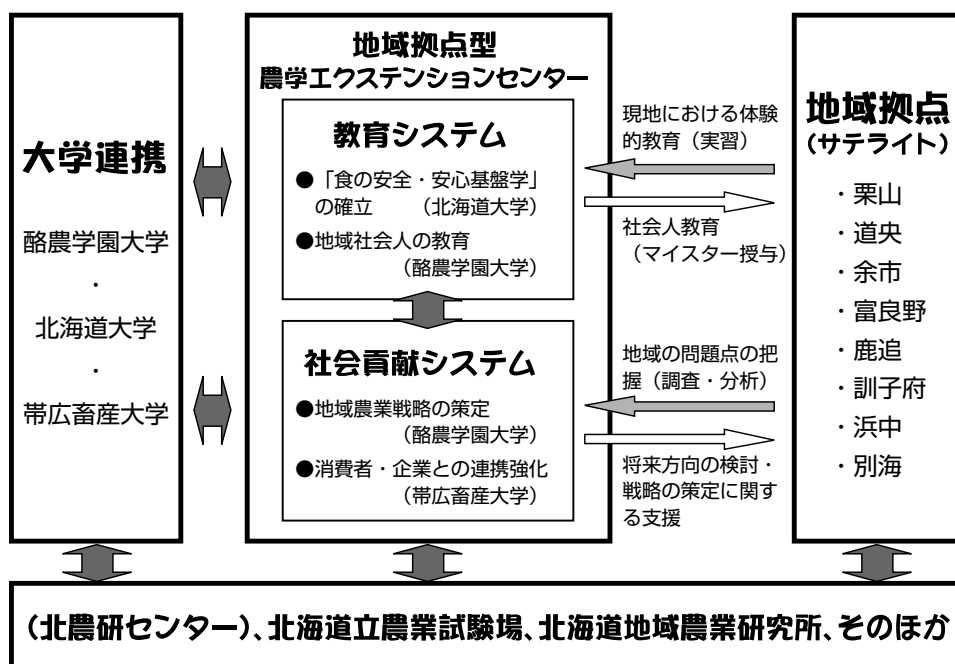
大学における「食の安全・安心基盤学」の構築に関しては北海道大学が、また社会人教育に関しては酪農学園大学が中心となって取り組む予定である。

### 3 地域に対する社会貢献

「地域に対する社会貢献」についても二つの役割を持っている。「食の安全・安心に配慮した地域農業の戦略支援」と「地域の消費者および企業との連携支援」である。

「食の安全・安心に配慮した地域農業の戦略支援」については、次のような取り組み方を考えている。最初に道内8カ所のサテライトについて、それぞれの地域における現状の分析と問題点の把握から始める。現場から各種データを提供していただき、それを大学で解析するとともに、地域が抱える問題の解決と将来方向の策定に関する提言を行う。その提言を基に、地域のどこにどのように生かすことができるかを検討する。解析の仕方などに関しても、

図 プロジェクトの運営組織（一部、将来に向けての案も含む）



地域からの要望について十分に話し合いを行う。この分野は酪農学園大学が中心となって担当する。

一方「地域の消費者および企業との連携支援」については、食の安全・安心を確立するために消費者と企業、大学がいかに連携していくかについて追求していく。この取り組みに関しては、既に地域共同研究センターが核となって活動している帯広畜産大学が中心となって担当する。

## 4 これまでに行ったこと

プロジェクトは2008年10月1日からスタートしているが、まず10月21日に3大学の代表者が集まって記者発表を行った（写真1）。

11月26日には「食の安全・安心を3大学と地域の連携で考える」と題して、第1回目のシンポジウム

を開催した（写真2、写真3）。このシンポジウムでは、第1部として文部科学省の古田和之高等教育局大学振興課課長補佐から「戦略的大学間連携支援事業」について解説していただいた。その後、筆者



写真2 シンポジウム「食の安全・安心を3大学と地域の連携で考える」のパネリスト



写真1 3大学の代表者（左から長澤帯広畜産大学長・谷山酪農学園大学長・服部北海道大学農学院長）



写真3 シンポジウム「食の安全・安心を3大学と地域の連携で考える」の参加者



写真4 浜中サテライトにおける第1回打ち合わせ  
(2009.1.28)

が「地域拠点型教育研究システムのネットワーク形成」、北海道大学サステナビリティ学教育センター長の佐々木隆生教授から「サステナビリティ学と3大学連携」、帯広畜産大学地域共同研究センター長の関川三男教授から「地域と協働した商品開発と地域振興」と題して講演していただいた。

第2部のパネルディスカッションでは「北大・畜大・酪農大3大学連携への期待と提言」と題して、北海道農業研究センターの新田恒雄企画管理室長や鹿追町農協の中野松雄常務、浜中町農協の高橋勇参事、コープさっぽろの石坂裕幸理事長補佐、JA北海道中央会の平山雅彦営農対策部長、㈱丸勝の梶原雅仁社長にプロジェクトへの期待と提言を語っていただいた。

「食の安全・安心に配慮した地域農業の戦略支援」については、プロジェクトのスタッフが現状把握のために既に各サテライトに入っている。写真4は09年1月に開いた浜中町での打ち合わせの様子で、写真5は別海町で開いた打ち合わせの様子である。また写真6は、3大学連携センターのスタッフが学生とともに浜中町に入って、現地の人たちから情報を収集する様子を示している。

## 5 これから何をするのか

これからやろうとしている主な内容を個条書きで示すと、以下のとおりである。

- ①食の安全・安心基盤学の講義プログラムの具体的な内容・シラバスを作成する
- ②各サテライトに地域社会人教育に活用する遠隔会議システムなどの整備を進める
- ③3大学共通して大学院生や社会人教育に活用する授業などを収録したコンテンツを整備する



写真5 別海サテライトにおける第1回打ち合わせ  
(2009.1.29)



写真6 浜中町での情報収集の様子

- ④事業の推進状況や情報発信に関するホームページを更新する
- ⑤「食の安全・安心」に関する公開講座・シンポジウムを開催する

## 6 3大学連携センターのスタッフ

3大学連携センターは、プロジェクトの代表校である酪農学園大学に設置している。3大学連携センターの主なスタッフは、以下のとおりである。皆さまからのご意見やご支援をお願いする次第である。

- ・連携センター長：干場信司（酪農学園大学）
- ・連携センター次長：坂下明彦（北海道大学）

本江昭夫（帯広畜産大学）

吉野宣彦（酪農学園大学）

- ・連携センター事務局長：前田善夫（特任教員）
- ・連携センター事務局次長：須藤純一（特任教員）
- ・連携センター事務局事務員：坂本 静
- ・連絡先：酪農学園大学地域拠点型農学エクステンションセンター（電話：011-388-4862／ファクス：011-388-4901）
- ・ホームページ：<http://www.foodsafety-renkei.jp/>